

## 鳥羽市地域公共交通会議 会議録

会議の名称	令和7年度第4回鳥羽市地域公共交通会議全体会
開催日時	令和8年 2月27日(金) 10:00~12:00
開催場所	鳥羽市役所西庁舎 4階 大会議室
議題	<p>1. あいさつ</p> <p>2. 議題</p> <p style="text-align: center;">【協議・承認事項】</p> <p>議案第1号 かもめバス運行経路変更(案)について</p> <p>議案第2号 地域公共交通確保維持事業に係る計画の変更について</p> <p style="text-align: center;">【報告事項】</p> <p>(1) 鳥羽市地域公共交通計画(素案)について</p> <p>3. その他</p>
会議資料	<p>事項書・席次表・委員名簿</p> <p>議案書</p> <p>1 資料1 かもめバス運行経路変更(案)</p> <p>2 資料2 地域公共交通確保維持事業に係る計画の変更について</p> <p>3 資料3 鳥羽市地域公共交通計画(案)</p> <p>4 資料4 鳥羽市高齢者交通パス・とばっこ交通パス事業</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	1人
出席委員	大野会長、加藤委員(オンライン)、清水氏(代理出席)、西田委員、森委員、小磯委員、山下委員、荒木氏(代理出席)、今井委員、酒徳氏(代理出席)、井上委員(オンライン)、中村委員、山口氏(代理出席)、山本委員(伊勢湾フェリー株式会社)、矢野委員、木下委員、清水委員、西川委員、山本委員(答志和具町内会)、小寺委員、楠田委員、山本委員(鳥羽市教育委員会)、奥村委員(鳥羽市健康福祉課)高浪委員、福田委員 25名
オブザーバー	なし
欠席委員	小崎委員、濱崎委員、世古委員、橋本委員、奥村委員(鳥羽市老人クラブ)、中西委員、天野委員 7名
事務局	定期船課 <span style="float: right;">企画財政課</span>

## 1. あいさつ

### ○事務局長

- ・開会
- ・配布資料の確認
- ・出席報告（32人中25人出席）

### ○会長挨拶

皆さん、おはようございます。副市長の大野でございます。

本日は、お忙しいところ、本会議にご出席を賜り誠にありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては、日ごろより本市の地域公共交通の確保維持につきまして多大なるご尽力とご協力を承りまして、厚くお礼申し上げます。

さて、本日の議題でございますが、お手元の事項書のとおり、協議・承認事項2件と報告事項1件となっております。市民の皆様の足であるかもめバスの運行に関する変更案件に加えまして、これからの本市の交通施策の根幹である鳥羽市地域公共交通計画の素案についてなどが今回の案件となっております。

地域公共交通計画の次期計画案につきましては、令和8年度からの5年間を見据えまして、深刻な担い手不足や社会変化に対応するための重要な指針でございます。DXや共助による新しい仕組みづくりに加えて、観光地としての経済効果を高める経済合理性の視点も取り入れ、持続可能な交通網の構築を目指しております。

皆様ご承知のとおり、離島地域や半島地域に指定される本市において公共交通は非常に大切な施策であり、同時に観光地としての魅力を支える基盤でもあります。これらを守り、よりよいものとして次世代へ繋いでいくためには、各分野の専門家である皆様、そして地域の代表である皆様の忌憚のないご意見が不可欠でございます。本日の議論が、市民の皆様、そして本市を訪れる皆様にとって、より快適で安心できる公共交通の構築につながることを期待しております。本日はどうぞよろしくお願いたします。

## 2. 議事

### (協議・承認事項)

#### (1) 議案第1号 かもめバス運行経路変更(案)について

##### ○ 事務局説明

議題書及び資料に基づき説明。

##### ○ 委員からの質問等

- ・西川委員（答志町内会）

地域住民から移設をしてほしいという要望が強かったのか、それとも停留所の老朽化などでこの際もっと集落の中に行こうとこちらが考えたのか、どちらが強いのか。

##### ・事務局

もともとかもめバスの運行当初、今浦の住民からもっと下のほうへ行ってほしいという要望があった。ただ、当時のバスの大きさと当時の検証の結果の中では行けなかった。

今回はその要望はなしにして、待合所の危険性を今浦の町内会長からいただき、建物をどうするかという話もあった。ただ、その建物については町内会と三重交通で折半で作り、所有は町内会、使用は三重交通ということで、鳥羽市が動かすことができないところが判断になる。それであれば、バス停を従来から要望のあった中に入れてみるという検討をしようということで、三重交通と検討し、町内会長もバス停の場所も協力するというので、バス停の場所、バスの転回する場所はJAの土地であるが、JAと町内会長と話をし、一時的であるが、そこで転回することの承諾をいただき、今に至る。

##### ・森委員（中部運輸局）

今回のバス停移設に伴い、運行時間が5分、これ以降のバス停部分については長くなるということで、それに伴って利便が下がることはないかご確認いただいているのか。

##### ・事務局

このダイヤ、5分を加味し、それぞれ石鏡港や本浦、学校に通われる方々の利便が損なわれないところを踏まえてダイヤの取り組みができるように考えている。

##### ・加藤委員（名古屋大学）

新しい時刻表があるとよい。

・事務局

新しい時刻表はある。

・加藤委員（名古屋大学）

時間が往復で10分延びるが、ちゃんと入るのかが知りたいと思った。

・事務局

時刻表の印刷物はあるが、今すぐに出せない。

・加藤委員（名古屋大学）

時間的に問題がないのであれば構わないが、こういうときは往々にして運転手の休憩時間が足りなくなっているとか、近鉄やJRとの関係が狂うとか、そういうことになるはずだと思う。そこをきちんとやられているのであれば問題ない。

・事務局

今回時刻表を作成するにあたり、皆さんとの相談もあり、一旦説明させていただいたが、近鉄、定期船には乗り継ぎで合わせている。時刻表は皆様に配布させていただきたい。

○ 採決

・会長

お諮りする。議案第1号についてご承認いただける方は挙手をお願いします。

～承認～

・会長

議案第1号についてはご承認いただいた。この経路変更に係る運賃については、この会議後に開催する運賃分科会で協議いただく予定となっている。

(2) 議案第2号 地域公共交通確保維持事業に係る計画の変更について

○ 事務局説明

議題書及び資料に基づき説明。

○ 委員からの質問等

・会長

加藤委員から議案第1号の関連で運賃分科会のことを、私からこの会議後に協議いただくということをお話しさせていただいたが、その内容を報告してほしいということである。事務局から運賃分科会に関する報告をお願いします。

・事務局

運賃分科会については、この会議の後、メンバーとしては中部運輸局、三重交通、市民委員の井上様とともに、今回ご承認いただいた路線について、金額、料金を設定するという形で分科会を開催する予定である。

・事務局

そのほかに、前回のバス幹事会でお認めいただいた鳥羽小学校～安楽島線に関して、新たな路線になったので、その料金と、今浦を含めた小浜～石鏡港線について料金を協議したいと思っている。基本的に料金はゾーンでということと同じで行きたいと思っている。

・加藤委員（名古屋大学）

今の今浦と新しい今浦が同じ運賃になるという、そこを聞いたかった。特に異論はない。

・会長

議案第2号についてご質問はあるか。

・森委員（中部運輸局）

現在の鳥羽市の計画が8年3月31日までとなっている。本日、資料3で交通計画の新計画を協議するのだが、4月1日以降の計画の協議が年度内にできないと、フィーダー補助系統が切れてしまう。本日どういう協議をするかというのはこの後ご説明いただくと思うが、その中でどのようにフィーダー補助を4月以降も継続できるか、皆さんや加藤先生とも話をしないといけないと思っている。資料2の内容については承知した。

・西川委員（答志町内会）

今回、今浦がまちなかに入っていくということについては地域住民にとっては非常にいいことだと思っている。バスの運行について、私は離島に住んでいるのでうろ覚えの部分がある。本浦のバス停はてっぺんにあるだけか。下になっていないのか。

・事務局

本浦港というバス停は降りていった先である。

・西川委員（答志町内会）

本浦港は一番下にあるのか、駐車場のところ。それならよい。

・加藤委員（名古屋大学）

今日のこの後の地域公共交通計画案が出ているが、今回策定されてしまうのか。パブコメはやったのか。

・事務局

パブリックコメントはこの会議の後に実施させていただく形になる。

・加藤委員（名古屋大学）

そうすると、今回策定はできない。3月中にもう1度この会議があるのか。

・事務局

特段予定していない。

・加藤委員（名古屋大学）

森委員の話だと、3月までに策定していないと今の計画は3月で終わってしまうので、4月1日から計画がない。計画がないということは補助が得られなくなってしまう。どうするのか。当面延長するとか、あるいは5月1日とか、最悪6月ぐらいまでにしないといけないと思う。6月以降が10月から運行の補助の申請になるので、そこについて担保するために、計画の延長を今日議決しておかないといけないのではないか。森委員、それでよろしいか。

・森委員（中部運輸局）

本来はパブコメをやった上である。パブコメをなぜやるかというのは、この計画について広く意見を聞くことと法で求めているので、その流れでやるのだが、この協議会を広く意見を聞いたという立てつけで、それでよしとするのだが、今回は延長に限って協議を整えるかどうかを皆さんにも考えていただきたい。

・加藤委員（名古屋大学）

3月末までに策定できればよいのだが、今日は2月27日で、パブリックコメントをいつから始めていつ終わるかわからないが、最低でも2週間はやると思うのでかなりギリギリだし、今回の会議もそうであるが、非常に近い段階で調整されたので、本来今日は東京出張の予定であったが、今日は研究室にいる。こちらの会議もきちんと出られない人が多い可能性があるということなので、そこまで急がないで、きちんとパブリックコメントを取って、4月以降に会議をやるのがいいと思う。それをやると無計画状態になってしまう。そこを避けるために当面延長することを議決するのか、それともパブリックコメントが何日までなので、次回は何日に会議をやるか今日決めてやっていかないと回っていかないのではないか。皆さんどう考えるか。

冒頭、会長からも大事な計画であるとお話しされたとおりで。大事な計画なので、市民の皆さんにもご理解いただく時間は必要である。これまでもいろいろと検討の中ではあったと思うが、私自身は後者のほうが、必ずしも急ぐ必要はないと思っている。事務局は認識していなかったのか。

・森委員（中部運輸局）

3月で切れるというのは、鳥羽市をはじめ、全国で幾つもあるので、運輸局としては3月で計画が切れてしまうところについては3月10日までに提出していただきたい。その上で国土交通省に提出することを各協議会にお願いしている。3月10日を考えると非常に厳しいスケジュールであることは皆様にお伝えする。

・事務局

パブリックコメントは非常に重要だと思っている。しっかりとした期間を取りたいと思っている。パブリックコメントは4月から1カ月から実施し、今回、資料3で新計画についてご議論いただくが、そちらをご議論いただき、その後のその他のところで現行計画を新計画ができるまで単純延長という形にさせていただきたいと思っている。そういう方向で議論していただきたいと思っている。

・加藤委員（名古屋大学）

決して悪いことではないと思っている。きちんと計画を作ることが大事である。運輸局が3月10日までにしなさいと言われて拙速に出すのはよくない。お金をもらえなくなると困るので、延長するのはやむを得ない。そこは遅れたから悪いとか、そういうことは思っていない。ただ、そのことを認識していないとすると、補助の問題が出てくるので気をつけてほしいということである。今おっしゃったような方針でよいと思う。

パブリックコメントは4月からやるのか。

・事務局

資料3でご説明させていただき予定でしたが、昨年の5月にスケジュールを説明させていただいたとおり、しっかりとパブリックコメントを実施させていただきたいと思っている。新年度になってから1カ月間、時間を取り、その後6月に令和8年度の最初の会議でやる予定にしている。そこでご報告させていただきたいと思っている。

・加藤委員（名古屋大学）

要するに森委員も同じ認識だと思うが、2と3が反対だったらということである。計画があってその補助申請なので、計画がどうなるかわからないのに、補助申請のほうだけ承認されても困るということだった。今までであれば、計画があるので補助申請のことだけ考えればよかったのだが、計画が変わるタイミングなので、変わる内容も含めて考えているのに、4月から変わる予定なのに計画がなくなってしまうということなので今の点は注意する必要があったということだと思う。逆転してしまっているのだが、後で手順は説明していただいて、延長でよいのではないか。当面なのか、6月30日までとか切ってやるか。当面というのは不思議な言い方なので、何月にして延長するのがよいと思う。

・事務局

今後のこの会議の進め方についてのご相談であるが、加藤委員がおっしゃったとおり、計画の延長が必要だと思っている。事項書上、承認事項が2つあって、その後報告事項になっているが、先ほど順番が逆というご指摘をいただいたが、この議案のご承認の後に、事項書には記載がないが、現行計画の延長をご協議させていただきたいと思っている。それを終えてから報告事項として新しい次の公共交通計画案の報告に進めさせていただくという形でいかがか。

○ 採決

・会長

それでは、第2号議案について、まずお諮りさせていただく。ご承認いただける方は挙手をお願いします。

～承認～

・会長

議案第2号についてはご承認いただいた。

事務局から提案があった現行計画の延長について、お諮りさせていただきたい。現行計画延長ということでご承認いただける方は挙手をお願いします。

～承認～

・会長

ご承認いただいた。事項書とは順番が変わったが、協議・承認事項については以上とする。

(報告事項)

(1) 鳥羽市地域公共交通計画（素案）について

○ 事務局説明

議題書及び資料に基づき説明。

○ 委員からの質問等

・木下委員（鳥羽市観光協会）

16ページ、政策の柱2について、上は現状と課題であるが、現状はどれか。

・事務局

「鳥羽市では」から「公衆無線LAN整備などを進めており」までが現状である。これは総合計画からの抜粋であるが、この記載に至るまでに市民アンケートや総合計画審議会での議論を総合計画の本体の資料に加えている。

・木下委員（鳥羽市観光協会）

既に何度も見ているので今更触ることではないという感じなのか。

・事務局

おっしゃるとおりである。令和6年度から総合計画を議論させていただいているが、市民アンケートを2回、パブリックコメントも実施し、総合計画審議会に答申をいただいている内容である。最後に3月の議会にお諮りし、確定する内容である。ここは変わることはないという理解している。

・木下委員（鳥羽市観光協会）

ギリギリなのかなと思った。今まで何度も見ているのに気がつかず申し訳ない。意見をしても大丈夫だろうか。

・事務局

ご意見は排除しないが、総合計画に関するご意見であれば、事務局としては承るがよろしいか。

・木下委員（鳥羽市観光協会）

変えられないかもしれないが、気がついたこととして、5年間これとつき合っていくのに思ったところがあった。

これは現状が書かれていないと今更気がついた。こういうところに書くときは、現状があって、課題があって、施策があって、目標があると思う。目標に関しては観光の魅力向上だと思うが、現状がしっかり書かれていないと思った。ここに書いてあるのは、今やっている施策のことが書いてある。現状としては書けていないのではないか。

現状が書けていないので課題が明確になっていない。いろいろ書いてあることが、現状と課題にも同じフレーズが出てくる。施策にも同じフレーズが出てくる。施策の部分が非常に象徴的な言葉になっていたと思った。

もう変えられないのなら仕方がないが、言いたいことはわかるが、お配りしてよいか。

・事務局

木下委員が説明いただいた内容を違う言い方をすると、ここの部分が鳥羽市が作っているほかのところで審議している計画を抜粋して載せている部分になる。総合計画が個別具体施策を書く計画ではなく、大きな方針のような計画になってくるので、抽象的というところはお理解いただきたい。

・木下委員（鳥羽市観光協会）

この色分けしている同じ言葉が使っているということで、全体的に見ていると感じよくまとまっているが、現状と課題、施策で同じ文章を使っていると気がついたのでお伝えしたかった。今更こんなことを言って申し訳ない。

これでいじりようがないとわかった。何か意見をいただける方がいると嬉しい。

・西川委員（答志町内会）

私と小寺委員も同じことを話していた。

・小寺委員（菅島町内会）

いじりようがないということであるが、18ページ、「まち歩きを促すモビリティ」のところ、「徒歩とあわせて、バス、自転車、電動キックボードなどの多様な移動手段を組み合わせ、歩きたくなるまちを目指す」、これは乗り物を挙げていて、どうして歩きたくなるまちを目指すという文章になるのか。

「新たなモビリティの導入により乗ること自体が楽しい」、乗ること自体が楽しいのに、前の文章では歩きたくなるのか。歩きたくなるということも楽しいという意味に捉えられるのではないか。文章を改善したほうがよいのではないか。

・事務局

こちらの文言は鳥羽駅周辺エリア将来ビジョンであるが、あくまでハードというか、都市構造としてどのように整備するかという観点で、その上で目標4の「オールストレスフリーで海にもまちにも行き届く」という表現である。こちらについても、パブリックコメントや市議会、策定委員会で協議したものである。この表現が誤っているものではないと我々は認識している。ご意見をいただきながら、運用の中で検討させていただく。

・会長

木下委員の発言についてコメントがあれば事務局から願います。

・事務局

総合計画はここに記載をしている計画も含めた上位の計画である。さまざまな施策を包含するような内容になっている。抽象的な表現になることは否めない。したがって、理念的なものをしっかり記載していただいているという点では適正性のあるものと思っている。引き続きこの記載に沿って施策を展開してまいりたい。

・加藤委員（名古屋大学）

四角の中に書いてあるのはほかのところを決めたことなので、おかしなところがあるけれど変えるべきという権利はないのだろうが、あれは恥ずかしい内容ではないかと個人的には思った。抽象的とか、そういう話ではなくて、ご指摘は、現状と課題のところ的现状と課題が書いていないと言っておられる。抽象とか具体ではない。現状と課題と言っているのに書いていないというご指摘である。

しかも、現状と課題のところと施策の展開がかなり同じことが書いてある。普通は現状と課題は、今こういう状況で、ここができていないと書いてあって、なので施策はここをやるとなるのに、何で同じことが書いてあるのかというのは、これから5年間これが市の公式の計画として出ると恥ずかしいと。僕も恥ずかしいのではないかなと思う。こんな恥ずかしい計画を出すのかと思える。ここは抽象的だからとか、そのように言わないほうがいいと思う。

総合計画の考え方、作り方のときにいつも言うのだが、総合計画は抽象的なもので、例えば交通のことを書くときには抽象的な表現になるというのはよくわかる。しかし、その抽象的な表現が地域公共交通会議で議論していることと全く違った方向だとすると非常に困る。

今回、第6次鳥羽市総合計画後期基本計画素案とある。素案というと、我々からすればまだいじれると考えてしまう。素案ではなくて、計画であれば、内容的に恥ずかしいが、こうなんだと言うだけなのだが、素案であれば恥ずかしいから何とか直したほうがいいと思うのが当たり前だと思う。本当にこれは素案なのか。

・事務局

素案ではなく、案である。

現状と課題とお示ししているが、今回は後期基本計画である。現行は前期基本計画で施策を展開しているところである。主語が抜けていて恐縮だが、前期基本計画の施策の現状と課題である。その辺をお含みおきいただきたい。

・加藤委員（名古屋大学）

では、そのすぐ下のところはどうか。下のところはそんなのではない。こちらは全く問題ない。こちらはちゃんとしている。しかし、上はちゃんとしていない。2つ見せられるから非常に違和感がある。「人口や利用客数の減少、労働者の不足等により」と現状が書いてある。「整備が求められています」と課題が書いてある。これを見なければまあいいかなと思ったのだが、何で上と下で、下はちゃんとできていのに、上はこうなのかと思った。ましてや上と下が同じことが書いてある。これは意見なので、そのままよい。

繰り返し言うが、素案であれば直せるので、こういう恥ずかしいのはやめたほうがよいということである。

もう1つは、総合計画を策定するときに、地域公共交通会議で議論していることをくみ取るのか、あるいはこういうことを書くのであれば先に言っていただいて、こういうことで書き込んでもいいのかと地域公共交通会議で議論すべきではないか。素人とは言わないが、交通のことがあまりわかっていないとか、交通はいろいろなものの一部ということを考えておられるようなところで議論したことを押し付けられるのはどうか。押し付けられていいことであればいいのだが、今のように疑問が出るということであれば、5年間ずっとギクシャクしてしまう。だからこそ、同じときに検討していくのではないか。上位計画だから、上位計画を踏まえておまえらもやれというのはおかしい。むしろ下位のほうがきちんとそれぞれのことを考えているのだから、下位のところで考えていることを踏まえて上位計画を書く。あるいは両方でやりとりして整合性を取るというのが本当の意味でのこの「関係計画の整理」ということではないかなと思う。

・事務局

我々としても上位、下位、上と下の関係性だと思っていない。今回、総合計画の素案についても10月の会議でお示しさせていただいて、その上でご議論いただいたと認識している。こちらの会議の委員の中にも総合計画に入っている方もいらっしゃる。計画は我々同じ企画財政課で策定させていただいている。そのあたりはしっかりと整合を取って記載している。

先生のご懸念も大変重要だと思っている。我々もそういったことを意識しながら双方の計画策定について取り組んできたと思っている。

・加藤委員（名古屋大学）

別にこうだからかなり齟齬があるとも思っていないのでこれで構わないが、あえて言えば、素案と書いてあるので、内容的におかしいと思っていることを指摘した。これだけ議論したので、ずっと覚えているので、ずっと言い続けるだろう。

18ページのまち歩きについて、個人的に疑問だったのは、新たなモビリティというのは何を指すのか。

・事務局

鳥羽駅周辺エリアのビジョンの中で議論した新たなモビリティは、例えばグリーンスローモビリティや電動キックボードなどの新モビリティの導入があれば適宜まちづくりの動向に応じて必要なものを導入してはどうかというご議論があったので、そういったものを幅広く呑めるような形で「新たな

モビリティ」という表現をさせていただいている。

・加藤委員（名古屋大学）

ご議論はいいのだが、基本方針の中に何が書いてあるかということであるが、そこで新たなモビリティは何なのかということが我々がわからないと具体的に交通計画で何をやっているかわからないということである。上は、「バス、自転車、伝統キックボード等の多様な移動手段」と書いてあるのに、下は「新たなモビリティ」とまたここは抽象的になる。電動キックボードは新たなモビリティかもしれないが、バス、自転車はクラシカルな交通機関である。グリーンスローモビリティということに全くない言葉も出た。グリーンスローモビリティであればかなり公共的なのだとすると計画に関係してくるとも言える。そういうところを無視してよかったのかとか、いろいろなことが思い浮かぶ。

ここはある意味大事であるから、新たなモビリティとなったときには、このビジョン、これもまた素案であるが、ビジョンの中で新たなモビリティというのは何を想定しているのかというのを脚注のような感じで書いてもらえるとイメージできると思う。

・事務局

ビジョンと交通計画の関係性のところで、しっかり連携しないといけないということは重々認識している。その上で、ビジョンの側の意見でも、しっかりとこれは交通側の意見を踏まえながらやらなければいけないという趣旨もあったので、特段そこまで深い議論をしていたわけではなかったところもあるので、こういった包含的な記載をしている。

その上で、交通計画においても、新たな交通システムを導入というような施策を位置づけさせていただいているが、この5年間で交通のほうでしっかりと議論していただいた内容をビジョン実現の事業に反映させていくという、双方向での議論のやりとりが必要かと思っているので、今回こういった記載をしているところである。引き続き皆様からご議論いただきたいと思っている。

・加藤委員（名古屋大学）

本当は同じときに計画策定するのだから、新しいモビリティと言っているのであれば、交通計画のほうでもちゃんと新しいモビリティを考慮して計画を策定しなければいけないと思う。

先ほどすごくこれは関係があるから大事だとおっしゃったので、ますますそのような気持ちになったということである。

・事務局

しっかりと今後の計画の中でやっていきたい。

鳥羽駅のほうではビジョンは作らせてもらったが、令和8年度から基本計画を作っていく。しっかりと議論を踏まえながら、新しいモビリティは一体何なのかということも踏まえて検討していきたい。

・加藤委員（名古屋大学）

本計画において、新しいモビリティについてはどこで書かれているのか。36ページの一番下か。

・事務局

③交通結節点の機能強化・整備のところモビリティの検討ができるようなものを記載している。「シェアサイクルや電動キックボード、小型EV等のパーソナルモビリティが集積できる」という形で記載させていただいている。

・加藤委員（名古屋大学）

ここに新しいモビリティという用語が対応するということかと思う。

・事務局

シェアサイクルや電動キックボードと記載しているが、もう少し具体的に書けるように新しいモビリティというか、単語をここに追記するような修正をしたい。

・西川委員（答志町内会）

全体的な文章について、自分も反省を踏まえてお願いであるが、文章を書くときに、できるだけ格調高く、あるいはちょっと洒落た難しい文言を使って格調高く学があるところを示したいという、そういう思いで文章を書く傾向にあった。例えば研究資料を書くときに、そんな感じで書いていた昔があった。しかし、今一般の市民となって考えてみると、こういう計画が出てきたときに、そういう形で書かれていると読む気にならない。

例えば1ページの「はじめに」で、「急速な少子高齢化の進展や利用者の選好の変化により、地域公共交通の維持が困難になっていること等の社会経済情勢の変化に対応するため」とあるが、このように書くのがいいのか。少子高齢化で利用する人が減って、あるいは利用する人の考え方が多様になり、要求が多様になり、そういうことで地域公共交通の維持が困難となっている。誰もがわかるよう

な簡単な表記の仕方を目指してほしい。

3ページ、黄色のところはチャーター船とある。このチャーター船と鳥羽市で運航している観光船は同じものなのか別のものなのか。タクシーや伊勢湾フェリーは書いてあるが、観光船は書いていない。必要ではないか。

その下の(2)の区域について、「ただし、市民等の移動は市域にとられず広域に及ぶため、近隣市等との連携も検討します」と書いてある。何を検討するのか。志摩市や伊勢市とどのように検討していくかというあたりを書くなればここに書かなければいけない。うたっておく必要があるのではないかと思う。

17ページは事前に資料よりずいぶん細かく細部にわたって書かれているのでいいのだが、消防・救急体制の強化の部分で携わっている者からすると、まだ現況が足りないのではないかという思いがしている。ドクターヘリや海上保安庁との協力とか書かれているが、ドクターヘリは夜は飛ばないし、海上保安庁はなかなか船を出してくれないのが現実である。そのあたりの部分、ここで書いていただいたのはありがたいことではあるが、まだまだ書いてほしいことがたくさんあるように思う。

それに関係して、23ページ、表の一番下の「救急搬送体制の構築」のところ、評価は「○」になっている。確かに頑張ってやってくれているが、取り組んでいるということであれば「○」であるが、効果はほとんど今のところ出ていない。これが「○」になるのか疑問である。消防が金銭面、手当面できちんとしてくれていることについては「○」であるが、その他の面についてはまだ全然進んでいない。「○」になるのか「△」になるのか「×」になるのかわからないが、そういう思いをしながら読ませていただいた。

#### ・事務局

表記については、今回難しい文言を使っており申し訳ない。市民にも周知をすることは大変重要な観点だと思っている。今後交通計画を概ねお認めいただければ、パンフレットを市民向けに作ろうと思っている。そちらの表現はできるだけわかりやすい表現に努めていきたいと思っている。

3ページの現在の交通モードについて、チャーター船は観光のものも含めて考えている。そういったものも含めて記載している。

区域の関係で、近隣市町との連携について、今回は特に観光交通の関係でしっかりと連携する必要があるというところで、このポツを追加しているところである。目標3の①広域的なバス路線網の再編のところ、今既にCANばすさんとか運行していただいているが、そういったものも含めてしっかりと連携していく。

複数の会議でもいただいているので、引き続きどういったことができるかを踏まえて、この会議の場でもご議論をいただきたいと思っている。必要に応じて記載を検討していきたい。

救急搬送の評価について、10月にも同じ発言をいただいていた。現行計画の評価指標が「協議の回数」という話になっている。緊急搬送体制について話し合った回数を評価指標にしていた。それで言うと目標回数が1回であったのを、2回以上やってきたということで「○」になっている。そういった意味でも、この評価する指標であればこういった定量的な評価ができないという形になるので、今回のKPIでは改めて見直しをさせていただいたところであるのでご承知おきいただきたい。

#### ・森委員（中部運輸局）

22ページの現行計画の評価、②の主な個別事業の進捗で、市民の利用促進として個別事業が3つ並べてあるが、進捗度としては「△」の概ね予定どおり実施となっている。これは3つの事業があるが、高齢者や運転に不安を感じる方へのかもめバス乗り方教室の開催、運転免許証自主本能支援制度の周知、これらというのは予定どおり実施であったり、実施できなかったものがあったのか。3つまとめて市民の利用促進として「△」という評価になっているのか。観光客の利用促進等についても一体として1つの進捗度の評価となっているが、どういった評価をされているのか。

24ページ、市民アンケート調査の結果で、公共交通の満足度として、かもめバス、市営定期船の満足度があるが、アンケートで満足度を聞くというのはよくあることであるが、重要度というのもアンケートの中で聞いて、市民の方からこういった重要度の結果が出ているということか。特に市営定期船のほうで重要度で⑦乗り継ぎのしやすさが低いので、市民の方からするとあまり重要としていなかったということが結果として出たということか。

#### ・事務局

評価について、こちらは今年の5月に評価いただいた内容を記載している。乗り方教室についてはできなかったが、運転免許自主返納支援制度の周知や低年齢層や親子向けの働きかけ（社会見学など）は一定の評価をいただいているところである。総合で「△」としている。

24ページ、公共交通の満足度について、こちらは重要度もあるので、重要も満足度もというところ

である。結果としてはご認識のとおりである。

・森委員（中部運輸局）

個別事業の進捗について、全体で総合評価としたということであるが、計画を確認するときに何ができて、何ができなかったということが個別にわかるとよいと思う。

・事務局

今年度の5月の評価を総合評価にせず、記載を具体化というか、そのときの評価を転記する形にさせていただきます。

・森委員（中部運輸局）

私からの意見ということで、それで皆さんがよろしければ、1つ1つ確認できるようにしたほうがよいということであれば、1つ1つの評価を残していただきたい。

・加藤委員（名古屋大学）

森委員の言われたことはそのとおりであると思っている。全体としての進捗度も必要かもしれないが、これから何をやっていくかということを考えてときに、それぞれのもの、例えば乗り方教室の開催が離島だとやらなくていいという話があった。では、どうやっていくかというのは、去年の5月はあれだが、どこかで話題になったのではないか。どのように考えていくかということを考えているのがそういう話なので、進捗度ではなく、やれたか、やれていないか、これからどうしていく、そういうことを議論した覚えがある。12月の自己評価のところで行っている。そこをきちんと入れていく必要があるのではないかと。

改善してほしいところが2カ所ある。1つは、「目標達成のための施策・事業」の実実施スケジュールを見ていただくと、令和8年から12年までずっとやるというものばかりになっている。普通はこうではなく、令和8年に実施のための調査があって、9年度に実施方策の検討があって、10年度に試行があって、11年度から実施とか、そのようになっているのが普通の計画だと思う。こんなどれもこれも全部5年間ずっと横に書いてあるというものはない。考えていないということである。

「新たな交通モードの導入可能性も含めたかもめバスの運行内容の検討」とあるが、5年間検討するのか。つまり、この計画だと、ループバスとか、新たな交通モードの導入可能性とか、かもめバスの運行内容の検討は全部5年間で終わらないということである。これはそう言っている。さっき恥ずかしいと言ったが、この計画で一番恥ずかしいのはここである。全部、バスにしても、新たな交通モードについても、定期船についても検討しているだけで、変えないと言っている。スクールバス、福祉バスのあり方検討も検討である。普通はR8年に検討して、R9年から順次始めるとか、そのように書くのではないのか。

私の講演を聞いている方だのご存じだと思うが、「検討」というのはNGワードである。交通計画においては「検討」という言葉を書くのであれば、最初から何も書かないほうがよい。恥ずかしいから。「検討」と書くと、検討もしないで計画を作ったのか。検討して、その結果何をやるかを決めて計画に書くのではないのか。「検討」と書くなと常に申し上げている。最初から検討だけである。これだと計画の体をなしていない。栈橋の改札機導入等のデジタル化の検討、5年やるのか。5年のうちに日本中もっとデジタル化されているだろう。鳥羽は5年間も検討を続けて何もやらない、こんなことを計画に書いていいのか。ここは本当にまずいと思う。検討だけするのであれば省いていただきたい。検討して実施するのであれば、この5年のうちに実施できるようにスケジュールのところを書いていただきたい。

もう1点、これも僕が講演しているときに常に言っていることであるし、今国交省が示しているアップデートガイダンスという地域公共交通計画策定のときにこういうことを考えて作ってくださいというのがある。読んでおられるかどうかかわからないが、アップデートガイダンスは私も策定に参画した。そこにも書いてあることだが、この計画の進行管理・評価体制であるが、ここには必ず1年間とか2年間のスケジュールを書く。つまり何月に会議をやって、それまでの間にこういう準備をして、計画を作ったらそれを踏まえて補助金申請をしてとか、議会がここで開かれるので、路線を変えるときにはそれについて審議してもらおうとか、後で画面共有してほかの計画の例を見せるが、そういうものを書くのが必要であると言っているのだが、鳥羽にはない。これはどういうことになるかという、今年度も場当たりの会議の日程を決めておられた。それはここに本来何月に何をやって、何月に何をやるかがわかっているならば、ここまで日程調整して、ここまで何か調べてとなるわけである。資料も直前にしか来ないとか、そのようにはならないはずである。そういうことにならないように、この計画の中で一番最後のところに1年間どのように地域公共交通会議を開きながら公共交通政策をやっていくかということの1年間のスケジュールが書いていないといけない。それが無いということは、来年度以降も場当たりの運営になる。場当たりのというのは計画とは反対である。計画と

いうのであれば、最初からある程度、もちろん計画があるから計画どおりに絶対やれということではない。何か緊急のことが起これば臨時の会議を開くこともあるのだが、最初からわかっていることさえも計画として1年間のスケジュールに書かないとしたら、もし皆さんが異動されたらどうなってしまうのか。来年度やられる方は全くわけもわからず、いつ会議を開いたらいいのか、どのように準備したらいいかわからずにやらなければいけない。

私は計画は遺言とも言っている。今会議に出ている人たちはわかるのだが、来年会議にその人たちが出なくなったときに、次に出てくる人が、前にやっていた人が考えたことをこの計画を読めばわかるようにするということが大事である。そうでなければ文章にする必然性もない。私が全部知っているから私が言うとおりにやるというだけでいいはずである。そんなことではダメである。ちゃんとスケジュールを書いていただきたい。

この2点がないと、ここに書いてあることは一切うまく回っていかない。実施できないと思う。そこが根本的に抜けているところである。これは事前に打ち合わせをしていただいたら、そこで話すことであるが、打ち合わせをしていないからここで話さざるを得ない。

パブリックコメントが4月であるのなら、3月中にここは詰めなければいけない。これを詰めないで、この内容で計画を出したら、鳥羽市は何もやる気がないと思われる。そんなことにならないようにきちんと、検討のところをなくして、どのように実施するかを詰めていくことをやらなければいけないと考えている。

- ・事務局

検討といっても、協議や会議をするというだけではなく、例えばその中で実証実験をすとか、実証の考察をして、こういう施策をやっていくということを含めて「検討」という表現をさせていただいている。議論していくというだけではないということをお含みおきいただきたい。

- ・加藤委員（名古屋大学）

そんなことは誰も思わない。見る人は、検討しかしていないだろう、何もやる気ないだろうとしか思わない。残念ながら、今おっしゃったように思う人は誰もいない。よろしいか。これでは全然ダメである。直していただきたい。

- ・事務局

もう一度内容を相談させていただきたい。

年次計画についても、現行計画に記載をさせていただいている内容も含めて、そういったものを記載できるように引き続き相談させていただきたい。

- ・会長

そのほか何かあるか。時間も12時に近づいてきた。先ほど委員の皆様からいただいた意見については、そこをしっかりと踏まえて3月に詰めさせていただき、進めさせていただきたい。

### 3. その他

- 鳥羽市健康福祉課説明

議題書及び資料に基づき説明。

- 委員からの質問等

- ・加藤委員（名古屋大学）

これを見たときに、結果的にハッピーチケットや定期券の売れ行きがよくなるわけである。先ほどの計画の中で、今までだとハッピーチケットがどれだけ売れたかとか、そういうことについては評価項目に入っていて、その項目がこの制度ができることによって上方修正されなければいけないと直感した。

新計画を見ると、ハッピーチケットがどれぐらいが売れるかというのは目標にはない。目標自体は、先ほど議論になったが、今の目標については評価のところ、21ページにあるのが評価指標であるということで、今度の新しい計画においては評価指標は一覧になっていないが、30ページ～32ページ、すっかり変わっている。本当にこれでいいかどうか議論していなかった。

ハッピーチケットの販売数はすぐわかる指標なので、評価指標としてなければいけないように思う。このあたりを全部落としてしまった。一方で、今出てきた施策においては、そういうことが増える施策を、もちろん交通の担当ではないところだから関係ないと言われるかもしれないが、結果として交通インパクトがあることなので今日も紹介をさせていただいた。それであれば、そのことはちゃんと評価指標として見るができるようになっていないといけなのではないかと思う。

今ご紹介されたものは議決されて、実際に実施されるのであれば、地域公共交通計画にも書いてお

くことだと思う。そういうところがあべこべに感じた。どうなっているか教えてほしい。

- ・事務局

直接的に交通の施策ということわけではないので今回入れてはいないが、市民の満足度を取っているの、こういったいろいろな施策を通じてであったり、そういったもので拾えるものと理解している。

- ・加藤委員（名古屋大学）

満足度に効くと思うが、それよりもまず利用枚数に効いてくる。販売枚数に効いて、利用者数に効いて、満足度は最後である。まず販売枚数が、しかも今まででも鳥羽市として簡単に把握できるところであるので、ちゃんとそこが指標としてあるべきではないのか。そこに直接効く施策を入れるのに、そのことが測れる指標は評価項目から落とす。なぜこういう悪いタイミングでそういうことをしてしまうのか。

もし落としたら、今後の会議ではハッピーチケットがいくら売れたかというのは、今まであれば年に1回は必ず出てきたが、出なくなるということである。本当にそれでいいのかどうか。僕はいいとは思わない。あるべきだと思う。

同時に、評価指標のリストをまとめて書いてほしい。今だと読みづらい。そのこともあってちゃんと見れていなかった。評価指標については、大括りの指標とすぐ測れる指標と両方あるべきではないか。検討していただきたい。

- ・会長

以上となる。12時になったので、もし思うところがあればまた事務局にご連絡いただきたい。

#### 4. 閉会